

2017年度 IRカレンダー(予定)

第1四半期	6月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定時株主総会招集ご通知発行 ● ALPS REPORT167号発行 ● 定時株主総会 ● 期末配当金支払い開始
	7月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第1四半期決算発表
第2四半期	8月	<ul style="list-style-type: none"> ● Annual Report発行 ● FACTBOOK発行
	9月	
第3四半期	10月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第2四半期決算発表
	11月	<ul style="list-style-type: none"> ● ALPS REPORT168号発行 ● 中間配当金支払い開始
	12月	
第4四半期	1月	<ul style="list-style-type: none"> ● 第3四半期決算発表
	2月	
	3月	
第1四半期	4月	<ul style="list-style-type: none"> ● 通期決算発表
	5月	<ul style="list-style-type: none"> ● 定時株主総会招集ご通知発行 ● ALPS REPORT169号発行

■ 株主メモ (2017年3月31日現在)

事業年度	毎年4月1日から翌年3月31日
基準日	定時株主総会権利行使確定日 毎年3月31日 期末配当金支払株主確定日 毎年3月31日 中間配当金支払株主確定日 毎年9月30日 その他あらかじめ公告して定めた日
定時株主総会	毎年6月下旬
公告掲載	電子公告により、当社ホームページ (http://www.alps.com/j/ir/index.html)に掲載します。 なお、やむを得ない事由により、電子公告ができない場合は、日本経済新聞に掲載します。
上場証券取引所	東京(第一部)証券コード6770
1単元の株式数	100株
株主名簿管理人及び特別口座の口座管理機関	三菱UFJ信託銀行株式会社
同連絡先	三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部 〒137-8081 東京都江東区東砂七丁目10番11号 ホームページ http://www.tr.mufig.jp/daikou/
	<div style="border: 1px solid black; padding: 2px; display: inline-block;">三菱UFJ信託銀行証券代行部</div> <input type="button" value="検索"/>

【ご注意】

- 1.住所変更、単元未満株式の買取・買増請求その他各種お手続きにつきましては、原則、お取り引きのある証券会社などにお問い合わせください。
- 2.特別口座に記録された株式に関する各種お手続きにつきましては、三菱UFJ信託銀行が口座管理機関となっておりますので、三菱UFJ信託銀行証券代行部にお問い合わせください。
- 3.未受領の配当金につきましては、三菱UFJ信託銀行本支店でお支払いいたします。

株式事務に関するお問い合わせ

三菱UFJ信託銀行証券代行部 テレホンセンター
 お問い合わせ ☎ **0120-232-711**
 (受付時間:土・日・祝祭日を除く平日9:00~17:00)
 住所変更等諸届用紙ご請求 ☎ **0120-244-479** (24時間受付)

【ALPS REPORT発行回数のご変更について】

当社はこれまでALPS REPORTを年4回発行してまいりましたが、第84期報告書(No.167)より、半期ごとの発行へと変更させて頂くことになりました。
 引き続き的確な情報提供や、誌面の更なる充実にも努めてまいりますので、ご理解頂きますようお願い申し上げます。

ALPS 167

NO. 167
 証券コード 6770

REPORT

第84期 報告書

アルプス電気株式会社 2017年6月2日発行



「持続的成長が可能な会社になる」ことを目標に、収益拡大に取り組みます。

2017年3月期 決算のポイント

- 電子部品事業の売上高は4,376億円で、前期比0.8%の増収
- 円高による影響を受けたものの、業容は着実に拡大



アルプス電気株式会社
代表取締役社長
栗山年弘

皆様へ

木々の緑が色合いを深め、夏の到来を感じる頃となりました。皆様におかれましては、ますますご健勝のこととお慶び申し上げます。

2016年度のエレクトロニクス業界は、自動車市場では好調な米国景気や中国での小型車減税による需要増などを背景に好調を持続しました。モバイル市場では、北米メーカーのスマートフォンが堅調で、更に中国現地メーカーも躍進しました。また、ゲーム機の新製品やVR/AR製品が市場投入されるなど、エレクトロニクスの更なる進展に向けた動きも活発化しています。

この中で当社は、昨年4月より3年間の第8次中期経営計画をスタートさせ、「持続的成長が可能な会社になる」ことを目標に、各種の取り組みを進めました。

車載市場では、各種操作入力用モジュールや通信モジュールなどを中心に売上は計画通り推移し、モバイル市場では年央までスマートフォン向けコンポーネント製品が軟調でしたが、後半より好調さを取り戻しました。新しいEHII市場向けでは、注目のIoT市場で各社との協業をもとに、具体的な提案を進めました。その結果、2016年度は前

期に比べて為替の円高による影響を受けたものの、業容は着実に拡大しました。

2017年度、第8次中期経営計画の二年目を迎え、重点項目は「車載モジュール事業での収益性向上」「モバイル市場向けビジネスでの1stサプライヤーの維持・拡大」「車載デバイス製品とEHII製品の強化拡大」「生産性向上の追求」です。現在、スマートフォン向けを中心とした旺盛な需要に対し、生産拡大を進めるとともに新製品の立ち上げにも取り組んでおります。不確実性が高まる事業環境の中、一層の緊張感、危機意識を持ち、収益拡大に取り組む所存です。

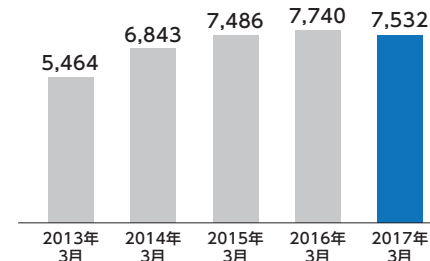
2016年度の期末配当は1株当たり15円、2017年度の間配当は2円増配して17円とさせて頂く予定で、今後も株主の皆様のご期待に応えるよう、一層の努力を重ねていく所存です。

皆様には、今後も変わらぬご支援、ご鞭撻を賜りますよう、宜しくお願い申し上げます。

VR/AR: Virtual Reality/Augmented Reality (仮想現実/拡張現実)
EHII: Energy, Healthcare, Industry, IoT (エネルギー、ヘルスケア、インダストリー、IoT)
IoT: Internet of Things (インターネット・オブ・シングス)

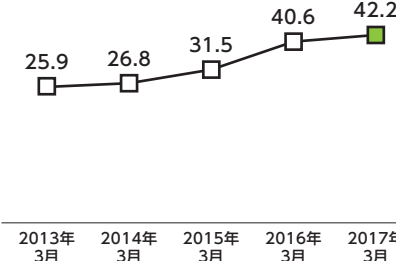
■ 連結業績ハイライト

■ 売上高 (億円)



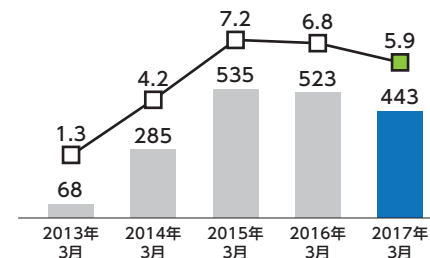
売上高
7,532億円

■ 自己資本比率 (%)



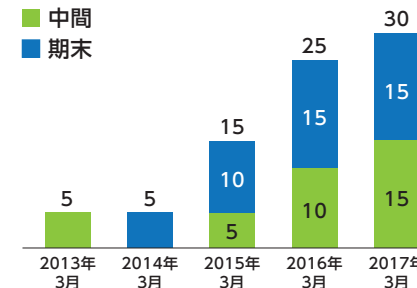
自己資本比率
42.2%

■ 営業利益 (億円)
■ 営業利益率 (%)



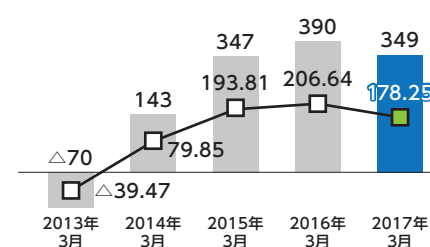
営業利益
443億円

■ 配当金推移 (単体) (円)



1株当たり
30円

■ 親会社株主に帰属する当期純損益 (億円)
■ 1株当たり当期純損益 (円)

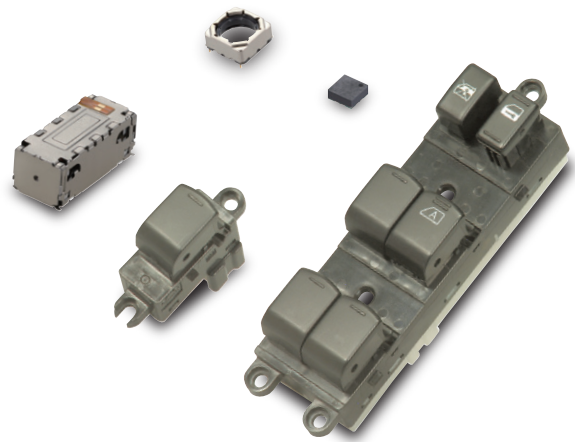


親会社株主に
帰属する
当期純利益
349億円

次期の見通し

2018年3月期 業績予想	
売上高	7,870億円 (前期比 4.5%)
営業利益	545億円 (前期比 22.8%)
経常利益	505億円 (前期比 18.2%)
親会社株主に帰属する当期純利益	360億円 (前期比 3.1%)
想定為替レート	米ドル/円108・ユーロ/円116
1株当たりの配当金 (単体)	17円 (中間) 17円 (期末)

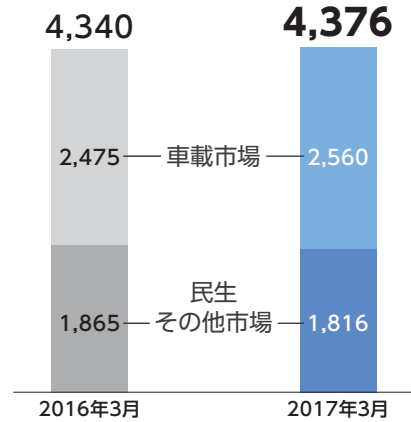
※2017/3為替レート: 米ドル/円 108.38・ユーロ/円 118.79



電子部品事業

売上高：4,376億円(前期比 0.8%増)
営業利益：328億円(前期比 19.6%減)

●売上高の推移(億円)



●[民生その他市場]

モバイル市場は着実に拡大。次なる取り組みも

モバイル市場向けは、スマートフォン向け製品が中国メーカーでの高機能化や北米メーカーの好調を受け、年度後半より拡大しました。またハプティック®の製品開発を進めるとともに、IoT市場では各種提案や協業を推進。EHII市場向け事業強化のため子会社を吸収合併するなど、次なる取り組みも進めました。

為替変動を受けながらも着実に拡大

昨年春先からの円高傾向や、スマートフォン市場の一部伸び悩みなど、上期の市場環境は大変厳しいものとなり、業績にも影響を及ぼしました。年度後半にはこれらが好転し、堅調な車載製品に加え、スマートフォン向け製品も挽回。結果、電子部品事業の売上は、前期比微増で過去最高となりましたが、営業利益は前期比で大幅に減少しました。

●[車載市場]

車載モジュール、車載デバイスともに堅調に推移

電子シフター、ドアモジュール等の操作入力用やBluetooth®、W-LAN等の通信用など各種ユニットをはじめ、センサ等のデバイスなど、車載市場向け製品は全般にわたって堅調に推移しました。また、昨年10月には車載製品製造子会社を吸収合併し、生産活動の強化も進めました。

来期の取り組み

車載市場ではモジュールの収益改善とデバイスの拡大を、モバイル市場では確実な製品供給と新製品開発に努めます。またEHII向けでの事業スピードの加速、更に電子部品の高度化や需要拡大に備え、国内外で生産基盤を拡充します。

その他
1.6% 121億円

電子部品事業
58.1%
4,376億円

車載市場
34.0%

民生
その他市場
24.1%

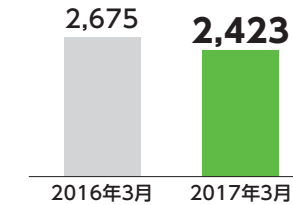
車載情報機器事業
32.2%
2,423億円

物流事業
8.1%
611億円

車載情報機器事業

売上高：2,423億円(前期比 9.4%減)
営業利益：56億円(前期比 3.5%増)

●売上高の推移(億円)



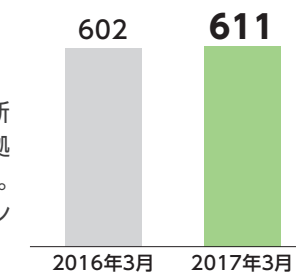
来期の取り組み

自動車メーカー向け純正品では、サウンドシステムや独自技術を用いたスピーカーの拡販に注力するとともに、欧米市販市場を中心に車種専用大画面ナビゲーションの一層の売上拡大を目指します。

物流事業

売上高：611億円(前期比 1.5%増)
営業利益：50億円(前期比 4.6%増)

●売上高の推移(億円)



国内外での倉庫の拡張を促進

(株)アルプス物流(東証二部)では、国内では倉庫の新設や輸送ネットワークの拡充を図りました。また、海外拠点では中国、タイ、韓国、ドイツでそれぞれ倉庫を拡張。フィリピンでは駐在員事務所を開設するなど、物流インフラの強化と今後のグローバル成長を推進しました。



来期の取り組み

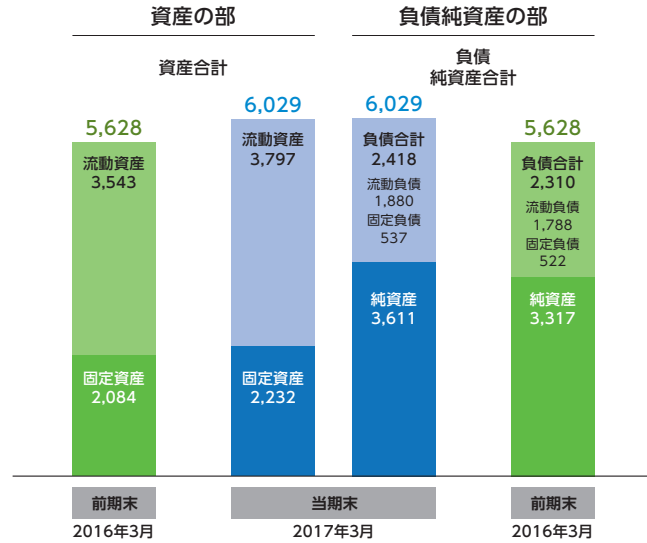
主力の電子部品物流事業を中心に、成長・拡充エリアへの拠点・ネットワーク拡大と新市場の開拓を進めるなど、次の飛躍に向けた事業基盤の強化に取り組み、グローバルに業容の拡大を図ります。



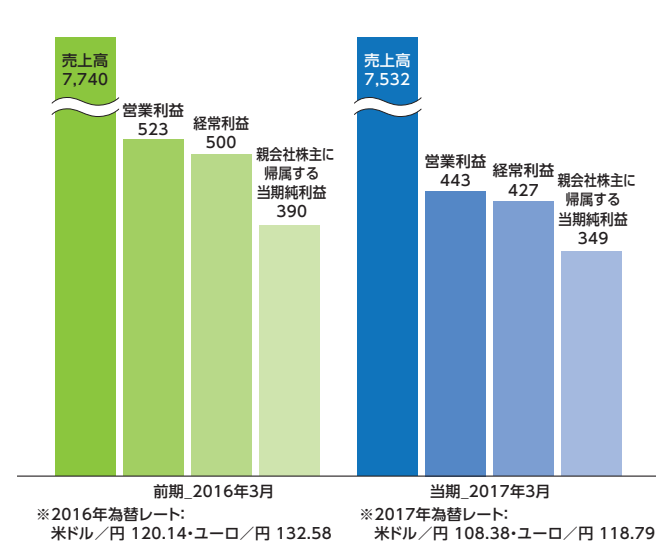
為替変動の影響を大きく受けながらも堅調に推移

アルパイン(株)(東証一部)では、自動運転時代を見据え、次世代車載システムの開発をスタートさせるとともに、ナビゲーション開発で培った位置制御技術を活用した新規ビジネスの創出を図るなど事業基盤の強化に取り組み、為替変動の影響を大きく受けながらも堅調に推移しました。

■ 連結貸借対照表の概要(億円)

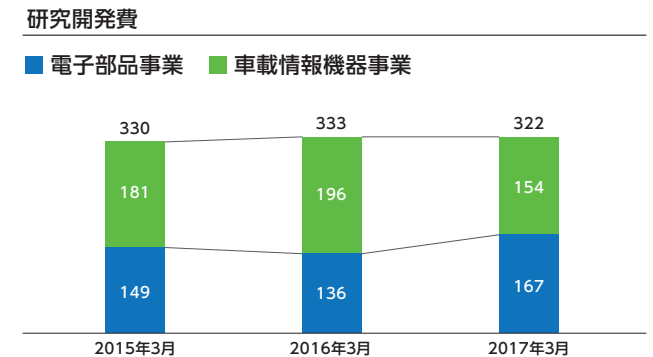
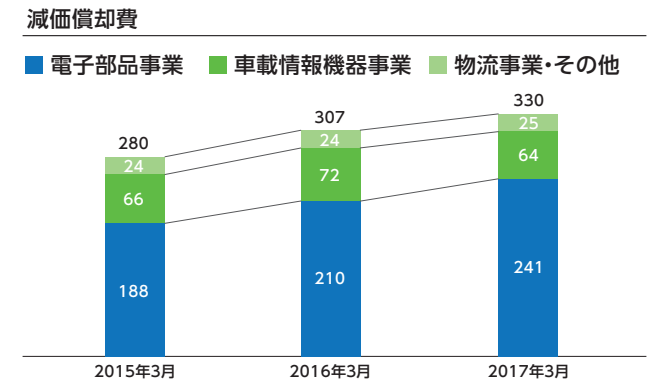
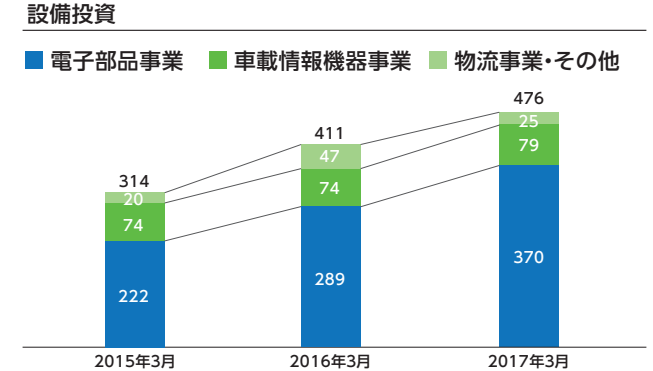


■ 連結損益計算書の概要(億円)

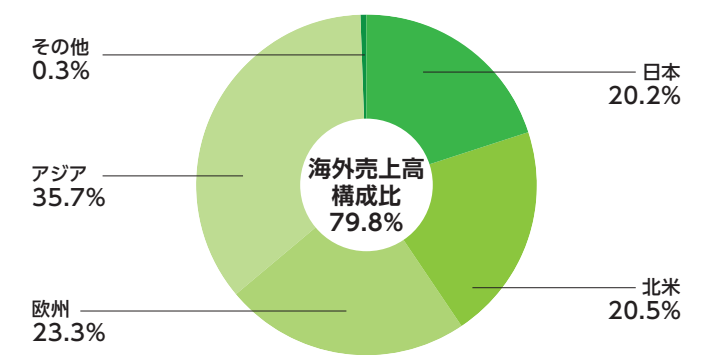


■ 設備投資・減価償却費・研究開発費の推移(億円)

※内訳には連結消去を含んでおりません。



■ 地域別売上高構成比

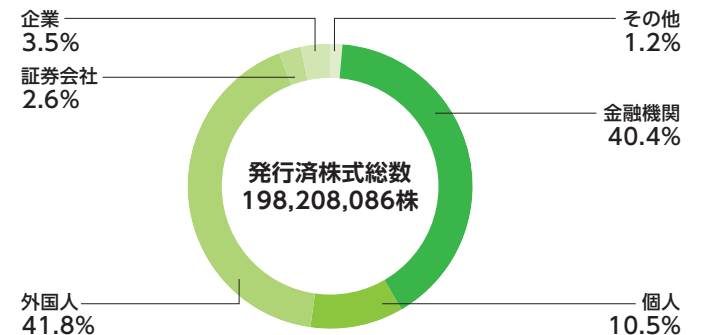


■ 株式の情報(2017年3月31日現在)

大株主の状況

順位	株主名	所有株式数	持株比率
1	日本マスタートラスト信託銀行株式会社(信託口)	24,956,600	12.59%
2	日本トラスティ・サービス信託銀行株式会社(信託口)	18,941,500	9.56%
3	資産管理サービス信託銀行株式会社(証券投資信託口)	4,911,900	2.48%
4	CHASE MANHATTAN BANK GTS CLIENTS ACCOUNT ESCROW	4,438,798	2.24%
5	三井生命保険株式会社	3,591,000	1.81%

所有者別分布状況



(注)その他は、自己名義株式と保管振替機構名義の失念株式です。
(注)個人は、個人・持株会名義の株式です。

ポイント

① 流動資産

流動資産は、受取手形及び売掛金、たな卸資産、現金及び預金の増加等により、前連結会計年度末と比べ253億円増加の3,797億円となりました。

② 固定資産

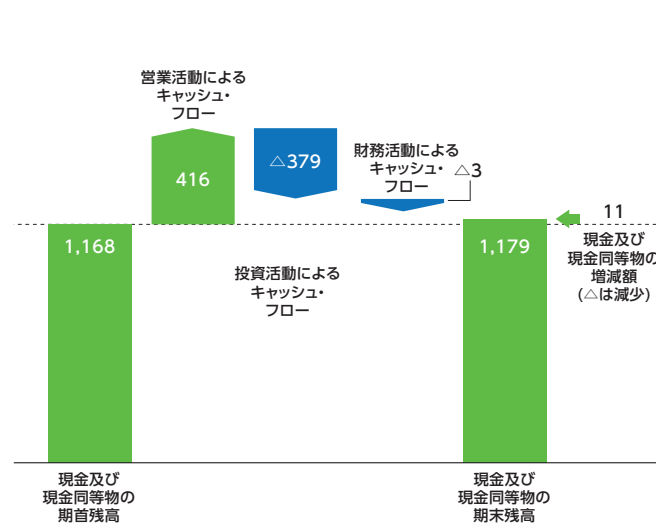
固定資産は、機械装置及び運搬具、工具器具備品及び金型、無形固定資産及び繰延税金資産の増加等により、前連結会計年度末と比べ147億円増加の2,232億円となりました。

③ 負債合計

流動負債は、支払手形及び買掛金、短期借入金、未払法人税等、未払費用及び賞与引当金の増加と、製品保証引当金の減少等により、前連結会計年度末と比べ92億円増加の1,880億円となりました。

固定負債は、長期借入金の増加と、退職給付に係る負債及び繰延税金負債の減少等により、前連結会計年度末と比べ14億円増加の537億円となりました。

■ 連結キャッシュ・フローの概要(億円)



第8次中期経営計画 初年度の振り返り

電子部品事業では、「持続的成長が可能な会社になる」ことを目指す姿とし、昨年4月から3年間にわたる第8次中期経営計画が進行しています。

現在の収益の柱であるスマートフォン市場がコモディティ化しても成長を続けられるよう、車載ビジネスでの更なる収益性の向上、新たな事業の柱の確立が重要ポイントであり、電子部品事業全体として「GT510」(売上高5,000億円、営業利益率10%)と、車載、モバイル両市場向けでも具体的な数値目標を掲げています。

この初年度となる2016年度は、車載市場向けの売上高が前期比3.4%増の2,560億円と「3,000億円の達成」に向けて着実な成長を続けています。課題である収益増加については、社員一丸となって生産

性の向上に取り組んでおり、スマートフォンビジネスとの「収益の両輪化」実現に拍車をかけています。

スマートフォンを含めたモバイル市場向けでは、為替の影響を大きく受け、売上高が前期比2.6%減の1,816億円となりました。「2,000億円の達成」に向け、スマートフォン向けカメラ用アクチュエータでは1stサプライヤーの堅持に加え、増客も進行しています。また、新しいバーチャルリアリティ機器やそれを活用したゲーム機向けにハプティック®の提案も進んでおり、今後の成長が期待されます。

新たな事業の柱として、第9次中期経営計画での売上600億円を目指すEHII市場向けでは、今期、韓国電力公社との相互協力の調印や子会社アルプス・グリーンデバイスを吸収合併し、ビジネススピードの加速を図るなど、各種の仕込み活動が着々と進行中です。

今後の取り組み

堅調な車載市場、活況が続くスマートフォン市場、またVRやIoT市場の立ち上がりなど、電子部品事業は引き続き拡大を予想しています。2017年度の売上高は前期比6.9%増の4,680億円、営業利益率は9.7%を計画。引き続き車載市場向けでの収益性向上、スマートフォン向けでの増産、新製品対応を進めるとともに、新市場のビジネススピードを一層加速させます。また、国内外で工場増設も予定するなど、「GT510」達成へ向け、着実な活動を進めます。



第6次中期経営計画
(2011年3月期～2013年3月期)
リーマン・ショック後のサバイバル

第7次中期経営計画
(2014年3月期～2016年3月期)
健全な会社になる



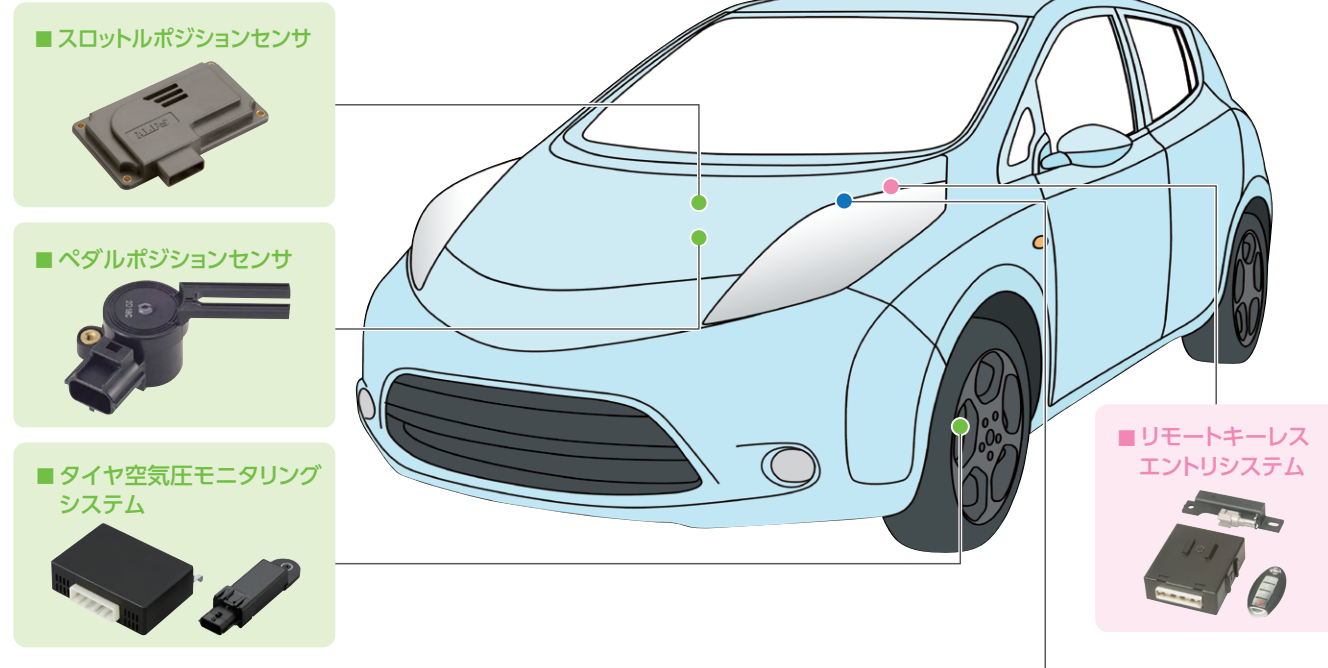
電子部品事業 第8次中期経営計画 事業目標

為替前提: 米ドル/円 110・ユーロ/円 125

GT510 (Sales ¥500Bil. Operating Income 10%) (売上高 5,000億円・営業利益率 10%)

	目標	施策
1	車載市場向け売上3,000億円の達成	1. 車載モジュールの収益増加 2. 車載デバイス製品ラインナップの拡大
2	モバイル市場向け売上2,000億円の達成	1. 1st サプライヤーの維持・拡大 2. 新モバイル機器へのビジネス開拓 (PC・ウェアラブル・バーチャルリアリティ・ドローン等)
3	EHII向け売上600億円の仕込み	1. 第9次中期経営計画に向けた仕込み 2. 高付加価値製品の拡販 3. 他社との協業によるオープンイノベーションの拡大

近年、デジタル化の進展によってエレクトロニクスは飛躍的な進化を遂げ、さまざまな分野に広がりを見せています。中でも各自動車メーカーは「安全・安心、快適、環境」はもとより、自動運転の実現に向けて、クルマのエレクトロニクス化に一層注力しています。当社では、これらを支える技術と製品の開発・供給を通じて、安全性、快適性、省エネルギー化、更にクルマの進化に貢献していきます。



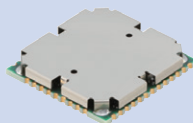
注目!最新製品

ADASや自動運転を実現するには、道路状況をはじめとしたさまざまな情報をやり取りする高周波技術が重要となっています。これらに向けた当社の最新製品をご紹介します。

ADAS: Advanced Drive Assistance System
V2X: Vehicle to X
GNSS: Global Navigation Satellite System

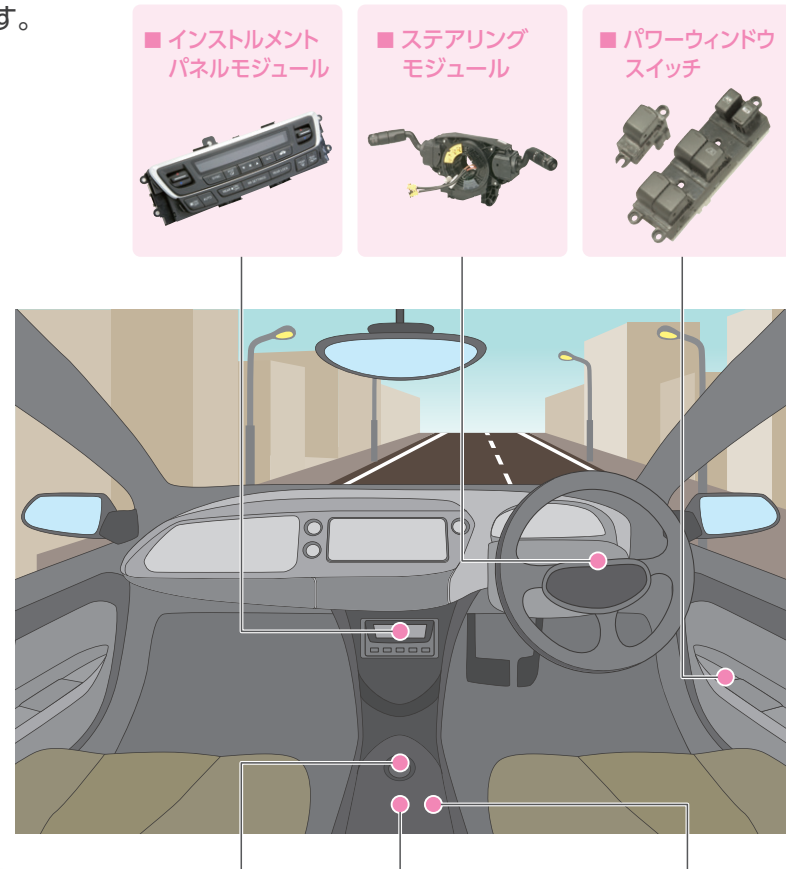
■ V2Xモジュール

世界に先駆け量産を開始したV2Xモジュール。将来の自動運転向け、車車間通信や信号機等交通インフラとの路車間通信を可能にする高周波部品です。当社独自のモジュール設計により開発。自動車事故の未然防止に貢献します。



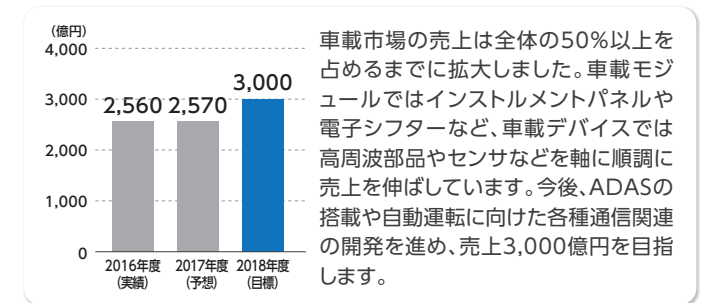
■ マルチGNSSモジュール

全世界航行衛星システム「GNSS」。正確な位置情報を検知し、複雑な道路状況下でも正確にナビゲーションをするのに必要なこのシステムは、米国のGPSをはじめ、ロシア、中国、欧州など、各国それぞれに運用が開始(または準備中)されています。本製品は高周波回路技術、ソフトウェア設計技術により1台で、これら複数の国の電波受信を可能としました。



TouchSense™ Technology Licensed by Immersion Corporation

● 車載市場売上3,000億円の達成(第8次中期経営計画目標)



● 車載製品を支える三つの技術領域

■ HMI (Human-Machine Interfaces)
「HMI」は、「人と機器をつなぐ技術」。つまり人が触れるモノ全てが対象です。当社が創業時から追究し、また最も得意とする領域です。ウィンドウスイッチ、エアコンパネル、最近ではギアシフターやパーキングブレーキまでもが電動化されていますが、安全・確実に操作できることはもとより、心地良い感触や、高級感あふれるフィーリングを作り出すことも、当社の「HMI」技術なのです。

■ SENSORING™ (当社センサ技術・製品群の総称)
アクセルの踏み込み量、ヘッドライトの高低、エンジン周辺のバルブ開閉など、クルマにはさまざまな動きや状態を検出するためのセンサが数多く搭載されています。当社は、独自の材料とプロセス技術、ソフトウェアを駆使し、クルマという厳しい環境に対応する信頼性、耐久性に優れたセンシングデバイスを開発しています。

■ Connectivity (主に無線通信)
機器と機器、情報と情報を的確につなぎ合わせる技術「Connectivity」。当社が創業時より培ってきた高周波技術を生かし、カーナビゲーションやカーオーディオとスマートフォンなどの接続に使用するBluetooth®をはじめ、Wireless LAN、LTEなど各種データ通信ユニットを提供。人・車・道路・設備をつなげるこの技術によって、より安全・安心な車社会の実現に貢献していきます。

Vol.5 ハプティック® 編



ものづくりにかける思いを広告に込めて



触れるコミュニケーションの大切さ。
電子部品も分かってきました。

触れるコミュニケーションの大切さ。 電子部品も分かってきました。

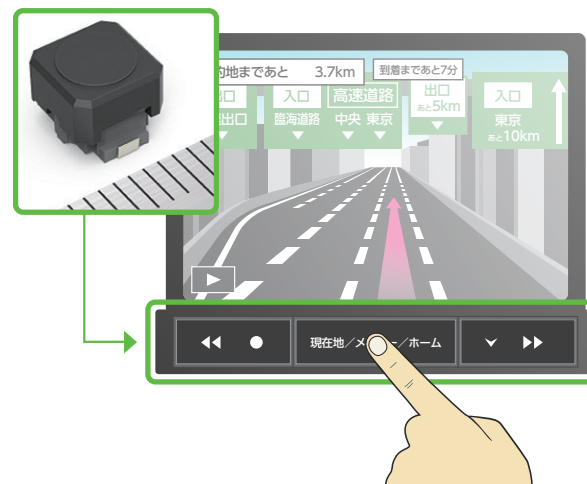
触れた手から伝わる愛情。力強い握手に込められた相手の思い。触れることで、人は目に見えないものまで感じとります。私たちの「ハプティック®」は触覚によって情報を伝える製品。さまざまな触感を、本物と錯覚するほどリアルに再現するところまで進歩しています。ゲームなどのエンターテインメントで。車の操作で。遠隔地から診療を行うなど医療や介護の分野で。人とマシンを新しい感動や便利でつなぐインターフェースとして、私たちはその可能性に大きな手ごたえを感じています。

ハプティック®はアルプス電気の登録商標です。

▶ 今回ご紹介した広告は
ホームページでご覧頂けます。
http://www.alps.com/gps_j/haptic.html

注目の新製品

車載機器に適した重作動力と長寿命を両立 タクトスイッチ®ソフトフィーリング表面実装タイプ



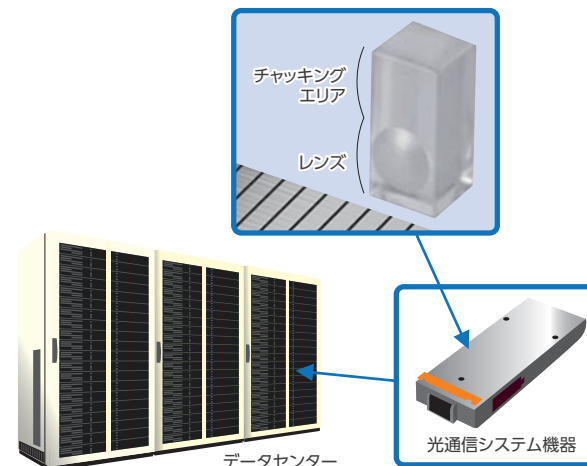
主な用途

●カーオーディオ、カーナビゲーションなどの
各種車載機器用スイッチ、産業機器、計測機器など

特長

本製品は、カーオーディオやカーナビゲーションなどの車載機器に向けて開発したものです。自動車に搭載されるスイッチには、不意の操作による誤作動を防止する工夫が求められ、当社では、ドライバーが「確かに押した」と認識できる重い操作感覚の製品をラインナップしています。この新製品は、従来品より更に重い操作感覚を持たせたものとし、安全性の更なる向上に貢献します。また、車室内のさまざまな操作を一つのスイッチに集約する昨今の動きに向け、従来品比3倍となる30万回の長寿命化も実現。塵やほこりの侵入を防ぐ新構造の採用により信頼性も向上しました。

光通信システム機器の小型化、高密度化に貢献 チャッキングエリア付狭幅非球面ガラスレンズ



主な用途

●マルチチャンネル光通信システム用機器

特長

本製品は、インターネットなど通信ネットワークのインフラ設備である光通信システム機器向けに開発したものです。IoTの普及によってネット上のデータ通信量はますます増加することが予想されており、それに伴って光通信システム機器を小型化し、複数設置することで対応する必要があります。この新製品は光通信用のレンズとして、これら機器の小型化を可能にする横幅0.6mmの狭幅化を実現。また上部に自動機で部品を掴む(チャッキング)エリアを設けたことで、機器への取付、調整を容易にしたことが高く評価されています。

この技術は自動車のインパネ周辺機器の各種操作にも生かされています。



ハプティックコマンド®

車室内機器をコントロールする「ハプティックコマンド®」は、人と機器をつなぐHMIにより人工的にさまざまな触感を作り出します。これによりオーディオ、ナビ、エアコンなどの異なる操作が一つのノブで可能となるため、ドライバーは道路から視線を移すことなく安全に操作することができます。「ハプティックコマンド®」は2002年の発表以来、多くの車に採用され実績を重ねています。

ハプティックコマンド®はアルプス電気の登録商標です。

2017年
1月 ●大田・ものづくり科学スクール
累計参加者2,000人に

当社と東京都大田区教育委員会との共催で2003年11月にスタートした「大田・ものづくり科学スクール」が、本年1月22日の開催で、累計参加者2,000人を超えました。これからも次世代を担う子供たちにもものづくりの楽しさを伝えていきます。



小中学生を対象に、当社社員が電子工作キットの組み立てを指導

メーカーとしての総合力を活かし、競争力を持つ先端技術の共同研究に取り組み、新しい事業創出を目指すとともに、創業人材の育成と地域産業の持続的成長を推進します。また、本連携協定を推進するため、東北大学キャンパス内に「アルプス電気-東北大・イノベーションラボ」(仮称)を設立予定です。



東北大学キャンパスで行われた調印式
当社 栗山社長(左)、東北大学 里見総長

●アルプス電気、アルパイン、アルプス物流
3社合同入社式を挙行政。3社合計272人が入社

4月 ●中国・無錫アルプスが工場を拡張

伸長するスマートフォンなどモバイル機器や車載向け製品の生産増に対応すべく、無錫アルプスでの新工場棟建設を計画。同月には無錫市政府との調印式が執り行われました。



新工場棟完成図(右上建屋)

●宮城県大崎市・北原工場での新工場棟建設を発表

生産基盤の維持・拡大及び将来に向けた国内基幹工場としての機能拡大を目的に、宮城県北原工場敷地内に新工場棟を建設することを発表しました。本年9月に着工、2018年10月の竣工を予定しています。



新工場棟完成図

当初、モバイル機器及び車載機器向け製品の生産からスタートし、需要に合わせて順次拡大していきます。

●2016年度通期決算を発表

2月 ●超小型圧接コンタクトの記事広告が
「日経BP Marketing Awards」を受賞

3月 ●新市場での新規顧客開拓に向け、
海外の展示会に出展

当社は、電子部品関連の展示会「electronica China 2017」(中国・上海)、世界最大級の国際情報通信技術見本市「CeBIT 2017」(ドイツ・ハノーバー)に出展。IoTでの具体的な取り組み事例や関連技術、ハプティック®のデモンストレーションなどを実施しました。



「electronica China 2017」では当社ブースに4,000人超が来場

●東北大学と「組織的連携協力協定」を締結

3月28日、東北大学との持続的かつ組織的な連携による研究開発や人材育成を目的とした「組織的連携協力協定」を締結しました。

東北大学の総合大学としての強みと当社の電子部品

株主様向けアンケート ~株主の皆様の声をお聞かせください~

当社では、株主の皆様のご意見を今後の株主通信の制作や、IR活動の参考とさせていただきます。アンケートを実施致します。

お手数ではございますが、アンケートへのご協力をお願い致します。

ご回答頂いた方の中から抽選でオリジナル図書カード500円を進呈させていただきます。



添付のアンケートハガキに必要事項をご記入頂き、同封の保護シールをご利用の上、ご返送ください。

2017年7月31日(月)

消印分までを集計対象とさせていただきます。

当社IRサイトのご案内

アルプス電気 IR

検索

URL: <http://www.alps.com/j/ir/>

コーポレートサイト



IRサイト



IRライブラリ



「株主・投資家の皆さまへ」より、IR情報や資料がご覧頂けます。